１１３号　令和７年３月１５日

＜学校教育目標＞　**自ら伸びる　ともに伸びる**

校長だより

呉市立阿賀小学校
安宗　誠

卒業式　式辞

式　辞

卒業生の皆さんとのお別れを惜しむかのような雨の卒業式になりました。このような中、呉市教育委員会指導主事　森川修平様、呉市議会議員　坂井誠臣様をはじめ、大勢のご来賓の皆様のご臨席を賜りますとともに、保護者の皆様のご列席をいただき、ここに令和６年度呉市立阿賀小学校第１４７回卒業証書授与式をかくも盛大に行うことができますことを心からお礼申し上げます。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

先日、卒業文集の原稿を読ませてもらいました。そこには、皆さん１人１人、これからどう生きていきたいのか、しっかり自分と向き合った文章がしたためてあって、胸が熱くなりました。中には、自分の将来の夢が今はまだはっきりとは決まっていなくて、「これから見付けていこうと思います。」と書いていた人もいましたが、それはそれでよいのだと思います。皆さんなら、いつか必ず自分の夢を見付けて、その実現に向けて頑張ることができるはずですから。

その一方で、私がこの年になってつくづく思うのは・・・。それは、「普通に生きていくことが何と難しいことか」ということです。「普通に生きる」とは・・・、「人の道をはずれない生き方をする」ということです。まわりのすべての人や物を傷つけないこと。悪口を言わないこと。ルールを守ること。欲張らないこと。他にも、言えば切りがありませんが、受験に合格することよりも、希望する仕事に就くことよりも、高い地位を得ることよりも、お金持ちになることよりも、ある意味、それをはるかに超える最も大切なことだと言えるかも知れません。例え、苦労してやっと叶えることができた夢だったしても、人の道を外れた生き方を一瞬でもしてしまうと、せっかく苦労して叶えたこともあっけなく跡形もなく吹き飛んでしまうことだってあるのです。

そうならないために、これまで自分が受けてきたご恩を、折に触れて振り返ってみることは必要です。

例えば、皆さんが誕生したあのとき、心の底から喜んでくれた人が必ずいたこと。皆さんが赤ちゃんのとき、毎日やさしく抱いてお風呂に入れてくれた人がいたこと。皆さんのおむつをずっと換え続けてくれた人がいたこと。病気のときは、徹夜で看病してくれた人がいたこと。あなたが悲しいときには自分のことのように心を痛め、あなたがうれしいときには自分のことのように喜んでくれた人がいたこと。あなたがもっている可能性を最大限伸ばそうとしてくれた人がいたこと。あなたのよさを理解し、認めてくれた人がいたこと。あなたがまちがったことをしたとき、あなたのことを思い、本気で叱ってくれた人がいたこと。

この他にも数え切れないご恩を忘れないで生きていくことが人の道をはずれない生き方につながるのだと思います。

そのご恩を忘れないために絶対に欠かすことのできない心が・・・、

それはこれです（「感謝」の文字を示す）。「感謝（かんしゃ）」です。「感謝」の「感」は、「感じる」。何を感じることでしょうか？「ありがとう」を「感じる」ことです。「感謝」の「謝」は「言（ごんべん）」に「射る」。「発射」の「射（しゃ）」ですね。つまり、「言葉を発する」ことです。ということは、「感謝」とは、「ありがとう」を感じて、それを心から言葉に表せることだと言えそうです。例えば、皆さんが、朝の見守りの方に、「私たちの命を見守ってくださってありがとう」と感じ、「おはようございます。いつもありがとうございます。」と表せていること。そのことなのです。そんな人でずっといられるように、みなさんは、この阿賀小学校で、家庭で、阿賀の地域の中で、さらには外の世界で、「感謝」を育んできました。皆さんのその「感謝の心」は、確実に後輩たちにも受け継がれ、ますます阿賀小学校は温かい学校になっていくでしょう。そして、次の時代を担うあなたたちによって、阿賀のまちもますます温かいまちになっていくことでしょう。

そういう皆さんですから、職員一同、自信をもって中学校に送り出します。これまで、約４千日を生き抜いた皆さんが、これから百歳まで生きるとして、残り３万日あまり。数々の困難にぶち当たることは覚悟しなければなりません。しかし、「感謝の心」さえあれば、どんな困難もプラスに変えていけるはずです。苦しみが喜びに変わるはずです。そこに「幸せ」を実感するはずです。「感謝の心」を持ち続けたその先にある「幸せ」を卒業生全員がつかめるよう、心から祈り続けております。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様の立派に成長されたお姿を目の当たりにし、改めて保護者の皆様方がお子様に注いでこられた深い愛情と学校へのご理解・ご協力に、敬意と感謝の念でいっぱいでございます。これからも、引き続き深い愛情で、お子様をさらなる成長へと導いていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

また、ご来賓、地域の皆様方におかれましては、これまで、いつも変わらず学校や子どもたちのことを温かく、見守り、支えていただき、誠にありがとうございます。これからも引き続きどうぞよろしくお願い致します。

最後に、重ねて、卒業生の皆さんのさらなる成長と末永い幸せを心よりお祈りし、式辞と致します。

令和７年　３月１５日

呉市立阿賀小学校長　安宗　誠